

発刊によせて

J S O会長 三瀬 駿二

J S O は設立以来、良質な矯正臨床を社会に提供することを第一の使命として活動してまいりましたが、さらに予てからの念願でありました学術面での活動も開始すべく、昨年3月に日本歯科矯正専門医学会と名称を変更いたしました。続く6月には第一回の学術大会を開催し、無事終了することができました。

日本で初めての認定専門医による学会には、これまでにない質の高い成果が求められます。今後は会員一同、臨床と研究ともに専門医の手本となって社会に貢献できますよう努めていく所存です。

さて、歯科矯正は歯科の中でも特に専門性が高い分野であるにもかかわらず、その特殊性が社会に認知されることなく今に至っています。また近年は一般歯科医の約1/3が矯正治療に携わるといった時代になったために、旧き時代の秩序と環境は壊れ、矯正臨床の現場には戸惑いと混乱が巻き起こっています。今となってはこの状況を元の姿に戻すことは不可能でありましょう。そのため新しい秩序による新しい環境を構築する以外に方法がないと判断するに至っています。新しい秩序の構築には、今までにない新しい発想が必要になります。その前にまず、私たち専門医一人一人が現状を正確に認識することが求められます。現状認識の合意が得られたうえで、新しい歯科矯正の秩序と環境を整えていくことが必要でしょう。キーワードは「公と私」です。個を捨てることができるかどうか、新しい秩序を構築できるかどうかの鍵だと思っています。J S O は将来の新しい秩序と環境を再構築する場として設立された組織です。

スタートしたばかりのJ S O は小さな組織ですが、小規模の組織は意識の一体化が比較的容易で、また社会の変化に素早く且つ柔軟に対応できる利点があります。近い将来われわれの手で、夢と希望もてる新しい矯正環境を構築することができれば、社会にとっても専門家にとっても、これほど有益なことはありません。

最後になりましたが、学術誌初刊を発刊するにあたって編集に携わっていただきました方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

今後とも会員一同の更なるご理解、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。